



岐阜北週報

5月 青少年奉仕月間

<input type="checkbox"/> 題字	永瀬 章	<input type="checkbox"/> 会長	永瀬 章	
<input type="checkbox"/> 例会	毎週水曜	<input type="checkbox"/> 副会長	前田 吉彦	2017-2018
<input type="checkbox"/> 会場	岐阜都ホテル	<input type="checkbox"/> 幹事	西垣 康紀	No.1719
		会報委員長	安藤 重広	18.5.16発行

前回の記録	本日の予定	次回の予定
第 1718 回 例会 5/9 (水) 慶祝行事 卓話 (11) 担当：河村会員・谷田会員	第 1719 回 例会 5/16 (水) 卓話 (12) アシスタントガバナー訪問 100万\$ 担当：小泉会員・榊原会員	第 1720 回 例会 5/23 (水) 卓話 (13) 100万\$ 担当：竹村会員・国井会員

会長挨拶



愈々、長良川に夏の風物詩、鵜飼が始まります。5月11日に開幕いたします。昨年岐阜市は信長公入城、命名450年と銘打って一大イベントを行った甲斐もあり鵜飼乗船者数は11万5千人と前年を超えました。

例年新しい企画を行っているのですが、今年度は、昨年行われた『温泉総選挙2017』において女子旅部門で長良川温泉が栄えある一位を獲得したことを記念して、月に一回ではありますが、女性専用船を運航いたします。特別仕立ての船に、女心をクスグル、いわゆるインスタ映えする小道具を、準備し、例えば、イサムノグチの「AKARI岐阜長良川ならではの水うちわ」ちょっと贅沢な川時間を楽しんでいただけます。

尚、運航予定日は各月の最終金曜日、所謂プレミアムフライデーに実施されます。金曜日には、乗船場近くの長良川デパートにおいて、浴衣も借りることが出来ます。

会長挨拶 続き

但し、女性専用です。美味しお弁当に、お土産もついて、参加料金は、スペシャルプライス5500円です。どうぞ、奥様や、お友達にお勧めください。超お値打ちです。

出席報告

会員数：32名
 出席数：25/32名
 出席率：78.13%
 欠席者：7名（出席免除 3名 86.21%）

慶祝行事

- 会員誕生日のお祝い

5月1日	前田 裕弘	様
5月3日	谷田 育子	様
5月10日	山口 八郎	様
5月15日	榊原 典夫	様
- ご夫人誕生日のお祝い

5月3日	国井 節子	様
5月9日	川島 良子	様
5月15日	西垣 知世	様
5月20日	小泉 明美	様
- 結婚記念日のお祝い

5月2日	河村 訓陸	様
5月4日	前田 裕弘	様
5月7日	片桐順一郎	様
5月19日	岡田一二三	様

ニコニコBOX（敬称略）

片桐順一郎：二人揃って結婚記念日を迎えられました。
 井戸憲一郎：新緑のシーズンになりましたが、はしかが、流行っているようです、お体にはご自愛ください。
 谷藤 哲：G・Wお疲れ様です。

幹事報告事項（敬称略）

次年度IM・ガバナー公式訪問例会のご案内
 平成30年7月14日（土）
 会場 岐阜都ホテル2F

例会行事

谷田会員卓話
 抜萃のつずり その七十七
 私があるということ 木村 高寛
 不平不満を言っている暇はない 水谷 謹人
 明日の成功と笑顔を思い描く 難波 利三

一輪のバラ 假屋崎省吾

信州上田で代々質屋を営む裕福な家に生まれた母は、ハイカラな人。東京にあこがれて銀座〇しとなり、「銀座の恋の物語」を経て、父と結婚しました。料理が得意でもてなし好きだった母は、よく自宅にお客さんを招いては、手料理を振る舞っていました。

音楽や旅行など多趣味な両親でしたが、共通の趣味の一つが園芸。当時の家は棟割長屋で、庭もたいして広くはなかったけれど、そこにはパンジーやツツジ葉牡丹など、両親が丹精込めて育てた四季折々の花がいつも咲いていました。そんな中で私も自然と興味を持つようになり、幼稚園のころには、両親と一緒に庭いじりをするようになりました。

私が小学校に上がったばかりの五月のこと。その日、母が大切に育てていた黄色のバラが一輪、ようやく花開きました。しかし、母はそのバラの茎に、あっさりとはサミを入れました。

「省吾、これを学校に持っていきなさい」

私が新聞紙にくるまれたバラを手に登校し、先生に渡すと、先生はバラを教室の片隅に飾ってくれました。するとどうでしょう。ビタミンカラーがぱっと映えて、まるで教室にエネルギーが満ち溢れるような心地がしたのです。花の力を感じた瞬間でした。

預金、貯金をせず、生活を楽しむためにお給料を使い果たしてしまう両親。それは決して浪費ではなく、生きたお金の使い方でした。

例会行事 続き

音楽なら、月に何枚ものレコードを買い、本物の音を聴くべく演奏会に足を運ぶ。そういった環境で、私は美意識を育んだのだと思います。私が大学生のとき、父が五十九歳の若さで亡くなりました。私は一家の大黒柱になるべく会社勤めを始めますが、いけばなへの思いを断ち切れず退社。アルバイトをしながらいけばな教室を手伝う生活の中で、あるとき「個展をやりたい」とつぶやくと、母が五十万円を手渡してくれたのです。それは、母が老後のために貯めておいたはずのお金でした。母が広報役を買って出てくれたおかげもあって、個展は大成功に終わりました。

その後、母のためにと新しい家を建てたのですが、引越しの前日、母は六十九歳でこの世を去りました。親孝行ができなかったことが心残りですが、いまもどこかで、母が見守ってくれているような気がしています。

（かりやざき しょうご＝華道家
 文藝春秋「おふくろ」29年4月号）

例会風景



例会風景



次回例会のご案内

第1720回 例会 5月23日(水)
卓話(13)
100万\$

担当者：竹村会員・国井会員

会報・広報 5月担当 安藤会員